

県内の遺跡・遺物32

ね ち 根 知 城 跡 (昭和63年 県指定)

所在地：糸魚川市根小屋字城山ほか

糸魚川市根知谷地区には根小屋城・栗山城・上城山城の三つの山城が存在しており、この三城を総称して「根知城」と呼んでいます。城から眺めると、姫川が城の西側を、根知川が北側から東側を流れており、この両川はあたかも水を蓄えた堀のようにも見えます。根知谷は盆地であると同時に独立性をもった地区で、根知城はこの恵まれた自然条件を大規模に利用して築かれており、戦国時代の山城及び館城の特徴をよく留めています。三城の中で中心的な役割を果たしていた根小屋城は、標高320mに位置する戦国時代の典型的な尾根城です。本丸跡と殿屋敷と称する郭跡を中心に、郭跡17、削平地201、堀切16、豎堀15というように大規模な遺構を見事に残しています。

根知城の築城年代は明らかではありませんが、永禄11年（1568）以降の上杉謙信の書状に、同地の警備を厳重にせよという指令が、何度も出されています。根知谷は、信越国境の要の地であるだけに、謙信も根知城を整備し、強固なものにしたと考えられます。武田信玄に追われ、川中島の合戦の発端を作った信濃の武将村上義清は、謙信の信頼が厚く、永禄8年（1565）には根知城主に任じられました。村上義清の死後、城主は次々と代わりましたが、景勝の会津移封後、根知城に入った堀清重は、慶長4年（1599）の上杉遺民一揆の際に根知城を廃し、慶長6年（1601）には糸魚川市一の宮に清崎城を築いたと言われています。



姫川対岸（西）から眺めた根知城跡（写真提供 糸魚川市教育委員会）

埋文にいがたNo. 34

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956 - 0845 新津市金津93番地 1 e-mail:maibun@coral.ocn.ne.jp

TEL (0250) 25 - 3981 FAX (0250) 25 - 3986

印刷（株）文久堂